

投稿

# 肺がんCT検診のすすめ

独立行政法人国立病院機構和歌山病院

呼吸器内科医長 小野 英也

ご存じでしょうか？ 2012年の都道府県別の肺がん死亡率で和歌山県はワースト4位と死亡率が高い県です。その和歌山県を7つの地域に分けた中で、御坊日高地域はワースト1位なのです。

では、死亡率を下げるにはどうしたらよいのでしょうか？ 分子標的剤や免疫治療といった新しい治療のおかげで肺がんの治療成績は改善してきていますが、進行した肺がんを治しきることが現時点では非常に困難です。早期発見、早期治療が鍵となります。

早期発見といえは胸部レントゲン検診を思い浮かべる方も多いと思います。しかし、胸部レントゲン検診

は肺がんの早期発見に關して、あまり有効ではないのです。胸部レントゲン検診を受けた人と受けていない人を比較し、死亡率がどれだけ改善されたかを検討する臨床試験が世界各国で行われてきましたが、両者の差はなし。つまり、胸部レントゲン検診を受けても肺がんによる死亡率は改善しないという結果でした。このため、日本以外の国で全住民を対象とした胸部レントゲンによる肺がん検診は行われていません。

そこで次に考えられたのが胸部CTを検診で利用する方法でした。レントゲンでは20%以下の腫瘍は発見困難であり、また、肺の入り口や心臓の裏にある腫瘍

も発見困難でしたが、CTの場合は5mm程度の腫瘍でも発見可能で、肺のどの部位にあっても見つけることができるのです。最近発表された喫煙者を対象とした大規模臨床試験の結果で、肺がんの死亡率を20%低下させることが確認されました。今後はCTによる肺がん検診が主流となっていくと考えられます。

50歳を過ぎれば肺がんCT検診、いかがですか？

和歌山病院では、肺がんCT検診、COPD検診(胸部CT及び呼吸機能検査)を行っています。そして、予約していただくことで土・日・祝日においても検診を受けることができます。

詳しくは、地域医療連携室 TEL0738-2301300までお問い合わせ下さい。